

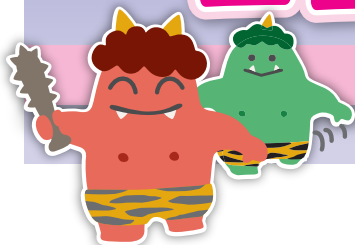
2

2021

三重病院

## ニュースレター

news letter vol.258



- 01 コロナはこれからどうなっていくのでしょうか？  
外来からのお知らせ
- 02 臨床研究部からのお便り—第33回—  
通所支援事業のひとコマ
- 03 やまばとギャラリー情報コーナー  
異動のごあいさつ
- 04 医療安全便り vol.19  
病院からのご願い／外来診察のご案内

## コロナはこれから どうなっ ていくのでしょ うか？

昨年も様々な出来事がありましたが、何といたっても新型コロナウイルス感染症(COVID-19)抜きには語れません。国内で初めて新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染が確認されたのは、昨年1月15日でした。それからちょうど1年が経過して、日本は3度の大きな「感染の波」を経験し、2度目の緊急事態宣言がなされたところです。

インフルエンザをはじめとする呼吸器感染症は、通常は小児がドライバーとなり感染拡大していきます。2009年の新型インフルエンザ流行時には、当院でも100人を超える小児の入院がありました。しかしながら、SARS-CoV-2は小児より成人での罹患リスク、重症化リスクが高い不思議なウイルスです。COVID-19患者の小児入院例はほとんどが元気なので、治療ではなく感染拡大予防を主目的としての入院となっています。

一方で、昨年春以降の患者数減少は顕著であり、特に感染症が激減しました。手足口病、ヘルパンギーナ、プール熱、RSウイルス感染症といった毎年流行がみられる小児ウイルス感染症もほとんどみられませんでした。当院でのロタウイルス胃腸炎の入院もゼロでした。COVID-19と同時流行が危惧されたインフルエンザも今のところ流行の兆しは全くありません。当たり前のことではありますが、呼吸器ウイルス感染症は人と人の接触があって感染伝播していくということを再認識した次第です。

こどもたちを病気から守ることが私たち小児科医の目的の一つでありますので、感染症が減ったことは好ましいことではあります。しかしながら、COVID-19感染予防のために払われた代償は決して小さくありません。日常生活においても、休校による学習機会や友人との交流の喪失、様々な課外活動の制限など、こ

もたちにかかるストレスは回り知れないものがあります。外出、医療機関における感染リスクを過度に恐れた、いわゆる受診控えも問題であります。津市では明らかではないようですが、国内ではワクチン接種率低下が報告されている地域もあります。今

後、ワクチン予防可能疾患

の罹患が増える可能性も想定しておかねばなりません。

さて、これからコロナはどうなっていくのでしょうか。感染終息のカギはやはりワクチンであると思います。米国などではすでに接種が開始されています。治験データでは90%以上の極めて高い有効率が報告されており、感染予防への期待が大きいわけですが、短期間で開発、臨床応用されたワクチンであり、また従来のワクチンプラットフォームと異なるコンセプトのmRNAワクチン等が使用されることになるため、副反応への懸念もあります。日本人は“ワクチン忌避”を起こしやすいと言われておりますので、今後接種を普及させていくためには有効性と安全性を適切に評価して、ワクチン接種のメリットを国民に解りやすく説明していくことが重要課題と思います。

(副院長・小児科 菅 秀)



### 外来からのお知らせ

休診	肥満外来	代診	小児科
	2/4(木) 貝沼		2/1(月)…鈴木→星
	口腔外科		
	2/24(水)・2/25(木) … 松村		